

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1・2階共通)

事業所番号	2793000288		
法人名	株式会社すずらん		
事業所名	グループホーム フォーユー淡路		
所在地	大阪市東淀川区西淡路4-15-25		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、ぬくもりのある手作りの食事に力を入れ入居者様それぞれの好みに合わせた食事提供を続けております。「その人らしい」暮らしを主に考え、家に近い感覚で日々を楽しむことをご一緒に考えて実践しています。イベントでは日頃の生活では、なかなか体験できない事をプロの先生をお招きして、日々のレクリエーション、お散歩、お買物の他にも月に一度は楽しい時間を過ごして頂いております。ご家族様や地域の方々も、お招きしていますので交流をもて、入居者様の笑顔がたくさん見られ好評を頂いております。フロアでは四季折々の展示物を入居者様と手作りしたり、3階には広いテラス・個別に談話が出来る日当たりの良いスペースがあります。テラスではお花や畑にてさつまいもミニトマトなどを栽培しており入居者様がとて面倒をみて下さり、その日に応じた入居者様のペースで生活して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員の良好な関係が構築されており、平成19年のグループホーム開設以来ほとんど辞めることなく勤務し、勤続年数・経験の豊富な職員が多いため、利用者一人ひとりのことを良く理解し、対応が温かく、利用者への気遣いができる。施設内はアットホームで明るい雰囲気があり、笑いヨガや元タカラジェンヌによる宝塚ショー、紅茶会など、ボランティアによるイベントが多数開催されている。建物は3階建てになっており、1、2階部分が入居者の居住スペース、3階が多目的ホールと屋上テラスになっている。季節の花を植えてあり、小さな畑で野菜を栽培し、収穫した野菜が食卓に上ることもある。食事はすべて職員が手作りしており、常に出来立ての温かい食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域との交流を育みながら、今まで過ごしてきた人生を尊重します。家庭的な雰囲気の中で、笑顔で充実した生きがいのある日々を過ごせるようにサポート致します。を理念に掲げ実践できるように努めている。	理念は玄関やフロア内に掲示され、常に家族や来訪者の目に触れるようになっている。平成19年のグループホーム開設時に運営していた法人の理念を継承している。朝礼時や勉強会時に唱和することはなく、年に1回程度しか職員間での理念の共有ができていない。	理念は、開設以来一度も見直されていないため、職員で相談をして、理念の内容を簡潔で分かりやすくし、常に皆で共有する機会を持つことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への、お散歩を取り入れ周辺住民との交流を図り、入居者様のカットや外食など可能な限り地域のお店を利用し交流をしている。	自治会に加入し、地域の回覧板が回ってきたり、祭りの手伝いに行く等、関係は築けている。近所には公園があり、利用者と一緒に散歩に行ったり、行きつけの美容室でカットする利用者もおり、近所の和食レストランや回転すしで外食することもある。笑いヨガ・宝塚歌劇・紅茶会など、ボランティアによるイベントを多く開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様のご家族様や、ご近所の方が面会に来られて際は認知症の周辺症状についての症状の説明と理解、支援するための心構えなどをお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定に基づき2か月に1度運営推進会議を開催し家族様や地域住民の方に施設の状況や出来事をお伝えし意見交換を行いより良い施設づくりを目指しています。	自治会長、地域包括支援センター、家族、介護アドバイザー（認知症ケアの専門家）を構成員とし、偶数月の第3土曜日に運営推進会議を開催している。家族から出た意見は、介護アドバイザーの助言を得たり、職員たちにも伝えて、皆で話し合い、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや町会長さん、地域役所の担当の方と連携を取り協力し施設運営を実施しています。	グループホーム連絡会や認知症サポーター養成講座を開催し、運営推進会議で地域包括支援センターとは連携を密に取っている。区役所とは、介護保険制度のことや請求について、分からないことがあれば相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、拘束となる行為を職員に理解して頂くため、日々職員への声掛けと勉強会を開催し身体拘束排除に向けた取り組みを実施しています。	玄関前は交通量が多く、安全のため施錠しているが、エレベーターやフロア内の移動は自由に行えるようになっている。身体拘束に関する研修は行っているが、開催していない。転倒しそうな利用者には、ベッド柵で出られないようにするのではなく、家具の配置を検討して、転倒を予防するなど、身体拘束をしないように取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が未設置で、マニュアルも開設以来見直していない。定期的に委員会を開催し、又、マニュアルが適正かどうかの見直しが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても身体拘束と同様に日々職員への声掛け、指導を徹底し実施しおこなっています。研修などあれば紹介も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度が必要な方に対して、必要性を説明したり、活用して頂けるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居して頂く際、ご家族様に対しては施設の方向性や認知症の周辺症状についての説明を行い、理解を持って下さるようお話をしながら施設に対して安心感と信頼関係を築けるよう努力を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を1階、玄関に設置いつでも家族様が意見や要望を伝えられるようにしている。運営推進会議の開催時に家族様の発言頂く時間を設け施設の方向性とを踏まえて積極的に反映させている。	玄関に設置した意見箱の中からは、家族の意見を得ることはできていない。しかし運営推進会議で家族から意見を聞いたり、家族の訪問時に利用者の様子や状況を伝え、積極的に意見や要望を聞くように努めている。寄せられた意見は職員で話し合い、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての職員の意見があれば、施設の方向性や状況と考えながら可能な範囲で運営に反映させていく。	開設以来離職する職員は少なく、皆勤続年数や経験年数が長い。職員と管理者の関係性は良く、活発に職員から意見や提案が出されている。出された意見は管理者と職員で話し合い、改善できることはすぐに改善し、時間を要する提案は代表者を交えて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から職場環境について聞き取りやアンケートを実施し、よりやりがいや、成果を感じてもらえるよう改善できるような職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃から職員個別にお話をしケアで分からない事などの意見を聞き職員のレベルに合わせた指導を行い、フロアーリーダーを中心に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部からの研修や勉強会の案内があれば事務室に掲示し、任意で参加して頂いています。勉強会でも外部研修の実施していません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容と共感、傾聴と理解に努め入居者様が安心して生活して頂けるよう入居者様との信頼関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が施設を利用されるにあたって、不安や、希望、要望などを聞き取り明確な答えを伝え安心して頂いた上で施設を利用して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様とのお話の中で施設に対し求めている事を把握しどういった形で支援を行えるか、対応が可能かを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の日常作業や調理、物作りなどを職員と一緒に実施している。事前にその方の得意、不得意をを把握し参加して頂きやすい雰囲気づくりと生きがい、施設にいる理由づくりを実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症に対し誤解や不安を感じられれば都度、説明させて頂き理解を求める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様だけでなく、知人の方、馴染みのお友達気軽に面会に来て頂き、その方との今までの関係性が施設に入られたことで途絶えてしまわないように努めていきたい。	施設には訪問眼科医が往診に来るが、今まで診てもらっていた眼科医に現在も診てもらっている利用者がある。入所前に利用していた訪問マッサージを週3回利用している利用者や、家族の支援で行きつけの美容院、馴染みのレストランに出かける利用者等、今まで大切にしてきた関係が途切れないような支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様ひとりひとりの関係性を職員が把握し性格や状況を考慮し、より交流を持たれるよう支援、声掛けを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じて相談や支援を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、一人一人に担当を決めさせていただき向き合う努力する事でよりその人らしい暮らしを提供できるように努めている。	コミュニケーション可能な利用者からは、会話の中から思いや意向を聞き取ることにはできるが、会話が困難な場合は、表情や仕草で一人ひとりの思いや意向を把握している。その人らしい暮らしを支えるため、皆と同じようにするのではなく、無理強いせず、時間や場所を替えるなど工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フロアリーダー、計画担当者を中心になり、アセスメントを実施し今までの生活歴、環境を知る努力を重ねケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務中に記入して頂く入居者様の個人ケア記録を都度、参照しながらその人にあつたケアの提案と改善を常に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が、日々のケアの中で得た情報をほかの職員や計画作成者と共有する事でケアプランに反映し状況にあったケアプランを作成している。	本人・家族の意向、協力医療機関の医師や訪問看護師の意見、職員からの日々の様子を参考にして介護計画を作成している。職員間で介護計画の情報を共有しており、3ヶ月に1回モニタリングを実施し、毎日の介護記録で介護計画が実行できたかどうかのチェックも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や排泄表などの日々記入して頂く書類の中の情報を申し送りの中で情報を共有しあい、改善し見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師やドクター、リハビリ、外部から来所される専門の知識を持たれて方々とお話することで意識を高め柔軟な支援を提供できるようサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に定期的に施設で活動して頂くなど交流を深めながら入居者様の暮らしの楽しさを増やす努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と協力体制をとっている医療施設を同地域にし毎週水曜日に来所していただいている。かかりつけの病院を持たれている入居者様には基本ご家族様に送迎して頂き医療面での適切なサポートを受けて頂くよう支援している。	入所時に、本人・家族・ホーム間でよく相談をして、かかりつけ医を決めている。現在は協力医の24時間・365日医療連携があり、月2回の往診を受けている。歯科はドクターと衛生士の週1回の往診を受けている。他に眼科も月1回の往診がある。その他の科は基本的に家族の同伴で受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と日々の入居者様の状態や特変をまめに報告し適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当のドクター、訪問看護師との連携、地域病院への早期対応を実施している。入院、退院時の情報交換をスムーズに実施しながら病院との協力体制、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を都度にお伝えしながら家族様と意見交換をし最終的な支援を共有できるように努める。	入所時に「重度化した場合の対応にかかる指針書」に基づき、ホームとして出来る事、出来ない事を丁寧に説明し、同意を得ている。看取りに関しても「看取りにかかる指針書」に基づき、実際重度化した時に、本人・家族・看護師・ドクターとよく相談し、方針を共有して看取りを行っている。過去に2例の看取りも経験しており、体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応について書面や口頭にて伝達を実施している。実際の救急搬送時などはフロアー職員前にて行ったり、なるべく対応を任せようとして実践力を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し、施設内の消防設備や避難経路の確認などを職員に指導している。	年2回の災害訓練は、消防署指導による訓練と自主訓練を実地している。当ホームは福祉避難施設に指定され、地域からも信頼され、水・米・ガス等も備蓄している。しかし、訓練に地域の方の参加がされていない。又水害・地震・火災の具体的なマニュアルが整備されていない。	年2回の災害訓練は出来ているが、地域の人への訓練の参加がされていない。地域との交流・参加は是非とも必要である。運営推進会議を通じて町内会長にお願いし、協力をいただくよう望まれる。又、水害・地震・火災に対する具体的なマニュアルを整備して、ミニ訓練やスキルアップ等に活用するよう望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自身の声掛けや対応が無意識のうちに相手を軽視しているような事があれば徹底した指導を行い職員全体の意識の向上に努めている。	利用者を人生の先輩と考え、尊厳とプライドを損なわないよう、特にトイレへの声かけは慎重に、それとなく行い、自立に向けた支援している。接遇を中心に研修し、何かあれば職員がお互い注意し合える体制を目指しているが、現在は目標達成半ばである。個人情報の書類はカギのかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様が選択できる場面ではそれぞれの入居様に選択して頂くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、入居様に意思確認を行い個別に対応できるよう努めている。(入浴、家事など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣から整容などは積極的に支援している。定期的にカット日を設け、ご自身の希望などお伝えしカットして頂いてる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められたメニューを提供しながら、その方の好きな食べ物や味付け食べたいものを把握して提供を行い食器洗いや食器拭きなども声掛け行いながら行っている。	食材・メニューは業者より送付され、ホームで調理し、手作りの温かい食事を提供している。外食も希望を聞き、2～3ヶ月に1回出かけている。職員は弁当持参で、利用者の食事介助をした後、食事をしている。焼き肉・すき焼き・ちらし寿司など、おやつでは、たこ焼き・ホットケーキ等の希望食を職員と一緒に、出来る範囲で参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は書面に記入し、変化に気づけるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄と、ハミグットなどを使用しながら食後の口腔内の清潔保持、誤嚥のリスクを減らすように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様に対して尿量やADLIに適切なパッドやリハパン使用が出来ているかを検討し改善を実施しながら本人に沿った支援が可能となるよう努めている。	排泄チェック表より個々のパターンを把握し、時間少し前にそれとなく声かけし、自立に向けてトイレへ誘導している。現在自立者は3名で、布パンツで過ごしている。生理用品はホームで一括購入し利用者に配布している。又メーカーとの研修により、使用方法や利用者にとって気持ち良く過ごせる方法を習得して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し排便間隔、排便の時間帯を把握し声掛けを行い促している。便秘の方にも適切な処置が可能となる。毎朝、牛乳を好まれる方が多いため提供を行い、体質改善にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の訴えある時はなるべく、その時にできる形で支援し、入浴剤などを取り入れ楽しんで頂けるように支援している。	基本週2回、時間は午前・午後に入浴しているが、希望により回数は柔軟に対応している。入浴拒否者には時間・人を変え対応している。季節により、柚子湯・菖蒲湯など、入浴剤も利用し、気持ち良く、楽しく入浴してもらっている。フロアマットを毎回替え、水虫予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休憩時間などは個々の生活リズムに合わせて一日が過ごせるように臨機応変に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報がスタッフ間で観覧できるように一覧表を各フロアに設置している。薬の変更などは個人ケアファイルに記入し、申し送りでも報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花や畑のお手入れ、栽培を行い個々の時間にあつた日常生活が送れるように環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食など、本人の希望時に同行で支援行い、外出など家族からの申し出でいつでも外出可能な支援を行っている。	日常外出を目標にして日課に組み入れ、利用者の体調・天候に合わせて近くの神社・公園・スーパー・コンビニなどに出かけている。季節感を味わい、外気に当たっている。家族の協力を得て、少人数単位で天王寺動物園などへ遠出したり、利用者に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入希望時にはともに外出を行ったり、スタッフが代行行い、買い物の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をお持ちではない方には、事務所の電話を使って頂いたり、伝えられない方には事務所から家族様へ本人の希望を連絡行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季による変化を施設でも感じて頂けるよう展示物や食事のメニュー、イベントで取り入れて居心地のよさ、四季の移り変わりを感じて頂けるよう配慮行っている。	リビング兼食堂は明るく、清潔で、過ごしやすい環境である。周りにはひな祭りの飾り物や塗り絵等が飾られ、季節感を出している。又3階には多目的ホールがあり、色々な会合やイベントが開かれている。テラスには花・野菜・樹木が植えられ、収穫されたものが食卓に上り、喜ばれている。又淀川の花火大会も見物出来、利用者は楽しみにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもリラックス出来るよう故郷の写真を貼ったり、展示物を行ったりと集団にいなくても気持ちが和らぐように配慮行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある家具や本人様の思い入れのある品物を極力お持ちいただき、居室に配置する事で、一日でも早く快適に過ごして頂けるよう配慮している。	居室には、ベット・空調器・換気扇・クローゼット・ナースコール等が設置されている。利用者は、自宅から使い慣れたテレビ・パソコンや仏壇・家族との写真を持ち込み、家庭の雰囲気を出し出す空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テラスに食物を栽培したり、夕刊を取りに行く、個別にお話の出来るスペースを設けたりと安全かつ自立した生活ができるように工夫を行っている。		